



今回の紙面

- ◆地域医療最前線 NO. 57 《須山信夫 院長》
- ◆看護師さんのページ NO. 37 《小田原みち江看護局長》 ◆研修医のページ NO. 40 《辻将大先生》
- ◆全国シンポジウム「地域推薦医学生の卒前・卒後の教育をどうするか？」
- ◆平成 26 年度第 4 回島根県地域医療支援会議 ◆平成 26 年度春季地域医療実習報告会



院とはなりません。しっかり生活リハビリを行い現在、在宅復帰率が90%以上です。また島根県では唯一、病院内に地域包括支援センターが入



津和野共存病院

院長 須山 信夫



皆さんこんにちは。医療法人橋井堂津和野共存病院、院長の須山信夫です。当院がある

津和野町は高齢化率が44%となっており少子高齢化、人口減少が進んでおります。国は今後の高齢化をにらみ地域包括ケアの構築、総合医の育成を進めております。当院は一般病床50床うち地域包括ケア病床27床です。当法人は津和野共存病院の他に訪問看護ステーション、介護老人保健施設、無床診療所を有し、介護施設を含め在宅への訪問診療を行っております。入院患者様は高齢者が多く、病気が治った後退院とばかり生活リハビリを行い現在、在宅復帰率が90%以上です。また島根県では唯一、病院内に地域包括支援センターが入

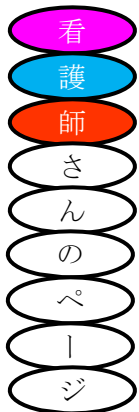


NO. 57

っており院内だけではなく院外
の多職種連携に
努めております。



今年度の取り組みでは日本プライマリ・ケア連合学会の後期研修プログラム(Ver.2.0)を益田圏域の病院と連携し認定を受けました。また島根大学、神戸大学、兵庫医科大学が行っている未来医療研究人材養成拠点形成事業、地域包括ケアを通じた総合診療医の養成にも参加しております。今後地域包括ケアをさらに強化し、地域医療に貢献していきたいと考えております。



NO. 37

島根県立中央病院

看護局長 小田原 みち江



島根県立中央病院は、県内全域をエリアとする三次救急医療、総合周産期母子医療、災害医療、地域がん診療連携拠点病院等の役割

を果たす県の基幹病院です。病床数は679床、直近の平均在院日数が14.4日という状況の中、1999年8月に新病院への移転と同時に稼動した病院統合情報システムは、病院運営の一元管理と患者サービスの向上に貢献しています。

【医療の主人公は患者さん】とする一貫した基本的な考え方のもと、激変する保健医療福祉を取り巻く医療状況に全職員で対応しています。島根県ドクターヘリ事業も順調に運用され、職員は県の医療の「最後の砦」で働くことに強い使命感をもっています。

現在、当院には約650名の看護職員が在籍し、県の基幹病院の職員としての誇りをもち県民の医療・看護を担っています。その役割と機能を果たすためには質の高い看護の提供は必須であると考え、特に人材確保と人材育成に取り組んでいます。個々の看護職員がビジョンをもちながら、その達成に向けて働き続けられる環境作りが重要だとも思っています。最近ではこの施設も経年教育はシステム化されてきました。当院では看護師の臨床実践能力や看護管理能力を「目標管理&ポートフォリオ」で支える人材育成システムを掲げています。そのねらいは看護職員一人ひとりのもつ力をフルに発

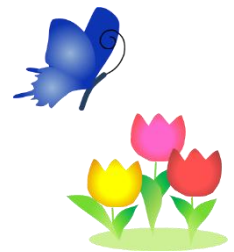
揮し、個人の目標に向けて努力すること、組織運営の高揚と組織全体の成果につなげることです。ここ数年、看護職員の目標管理成果発表会を行っています。どの職員の発表を聞いても素晴らしい、看護局の大きな力を感じます。

昨年4月には専門看護師の取得をめざし大学院へも進学させることができました。認定看護師も18名になりました。当院の役割を果たすためには看護の質を担保することが必須になります。確実に職員能力の向上が図られていますし、県民の皆様への医療・看護に貢献できていると考えています。

昨年7月には病院機能評価V3を審査し、11月には認定書をいただきました。好評価をいただきましたが、病院全体で取り組んだ成果が今、更なるチーム医療の推進に役立っていると思っています。高度急性期病院に相応しい看護実践を目指すための課題は多くあります。引き続き人材育成を行いながら、職員の達成感を組



織の活性化につなげられるような環境をつくっていききたいと考えています。



のページ

NO. 40

国立病院機構 浜田医療センター

1年目研修医 辻 将大



麗らかな風が春を感じさせる今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。はじめまして、

浜田医療センター初期研修医の辻将大と申します。

浜田医療センターは県西部の中核病院として、地域のニーズに応える医療をめざしています。医師や看護師だけでなく多職種のスタッフにより病院というチームが構成されており、患者さん・ご家族を支援させていただいております。地域に根ざしたこの病院で、

私は初期研修医という立場でチームの一員として貢献できるよう日々研鑽中です。

さて、早いもので私が研修医になってから1年が経ちました。振り返ってみると、私が当院で研修をしたと考えるようになったきっかけは、地域医療実習でした。1年生の長期休暇中に実習の一環として浜田医療センターと波佐診療所を訪問させていただきました。地域社会に溶け込んだありがたい医療の展開がとても印象的であり、そのときから浜田という地域が好きになりました。実際に浜田で1年間研修医生活を送ってみると、自分が浜田の色に染まっていることに気がつきました。ここで出会った方々には、私の今後の人生に大きな影響を与えていただいたと思います。

先日、島根大学の学生さんが地域医療実習プログラムを利用して浜田医療センターの見学に来てくださいました。懇親会では診療所の先生、浜田医療センター院長や指導医の先生、研修医が学生さんを囲む形で交流の場を持たせていただきました。学生さんたちが真摯に医学を志し、地域の医療に関心に向けている姿勢にたいへん刺激を受けました。後輩の皆さんには浜田での研修の魅力を伝えていきたいと思っています。

ります。そのためにも、研修の質は自分たちが担保していかなければならないという責任を感じ、身の引き締まる思いです。

私は県外の出身ですが、縁あって島根県で学生・研修医の生活を送らせていただいております。育ての親である島根県に対して感謝の心を忘れず、少しずつ恩返しをしていけたらと思っております。今後ともあたたかいご支援のほど、よろしくお願ひ致します。



全国シンポジウム
「地域推薦医学生の卒前・卒後の教育をどうするか？」

2月20日(金)、全国シンポジウム「地域推薦医学生の卒前・卒後教育をどうするか？」地域推薦医学生・医師の教育・キャリア形成に地域医療支援センターが果たす役割」が東京都内で開催されました。

今回で7回目のこの全国シンポジウムでは、地域推荐医学生の卒前・卒

後教育の地域医療実習やキャリア形成支援体制の構築をどのように進めていくか等、毎年活発な議論が行われて



います。

今回ははじめに、「医療法に位置づけられた地域医療支援センターへの期待」と題して、厚生労働省医政局地域医療計画課の廣澤課長補佐の基調講演が行われました。その中で、都道府県が地域枠出身医師等のキャリア形成支援と一体的に、地域の医療機関の医師確保を行うという地域医療支援センターの機能を医療法上で位置づけたので、各都道府県で責任を持って医師の地域偏在解消に取り組むよう求められました。そして、今回、シンポジストとして「しまね地域医療支援センターの取組と課題」を発表しました。当センターは全国でも珍しく、県内医療機関、医師会、島根大学、市町村、島根県等を会員とする一般社団法人として平成25年3月に設立し、事務職員も県・市町村等から派遣され、県内医療機関や

市町村が会員として事業に主体的に参画し、「オールしまね」での支援体制を構築していることが特徴であると報告しました。また、当センターの役割は、島根の地域医療に貢献する志を持った若手医師が県内を中心に安心して研修・勤務できるようなキャリア形成支援を行うことにより、県内の医療提供体制を充実させることであり、事業として、①医師のキャリア形成支援、②研修体制の充実に向けた支援、③研修医確保に向けた情報発信、④ワークライフバランスの推進、⑤関係機関との連携体制構築、⑥医師不足状況等の把握・分析を実施していることも報告しました。



ました。

特に医師のキャリア形成支援については、地域推薦枠医師や県奨学金貸与者に、センターへ登録（現在100名程度）してもらおうこと、毎年「私のキャリアプラン」を提出してもらい、専任医師がキャリア面談を行って、卒業後10年程度のキャリアプログラムの作成を支援していることを説明しました。一方、課題として、全国に先駆けて地域推薦枠医師が誕生（H24年4月）

した島根大学医学部の地域推薦枠は、「県内へき地の出身で、将来そのへき地の医療に貢献する強い意志があること」や「出身地の市町村長等の面談を受けること」が出願要件となっており、医師不足にあえぐへき地からの期待が想像以上に大きいにもかかわらず、地域枠出身医師が「どの診療科を選択し、いつ、どのくらいの期間出身地域での勤務が求められるか」が明確になっていないため、早期のへき地勤務に至っていません。

早期に出身地域で勤務するキャリアプランを作成するためには、本人の希望と出身地域と所属先の意向を調整する必要がありますが、実現するための共通認識とシステムが十分に構築できていないので、今後は、関係機関が連携し共通理解のもと早期からきめ細やかに支援することや、県内医師配置調整に向けた関係者間での調整が必要であると発表しました。発表後の質疑等では、一般社団法人化し、市町村や医療機関等が主体的に関われる体制になっていること



や、100名以上の支援対象者に毎年面談し、キャリア形成支援をしていることについて多くの質問があり、島根の取組みの特色について議論ができました。

また、他県の地域医療支援センターの取組みやキャリア形成支援策について学ぶことができ、たいへん参考になりました。今後は、他県の良いところを参考にし、より充実したキャリア形成支援につなげていきたいと思えます。

【しまね地域医療支援センター 勝部】

平成26年度第4回 島根県地域医療支援会議

平成27年3月11日（水）、平成26年度第4回島根県地域医療支援会議をオンラインポーむらくも（松江市）において開催しました。今回は、平成27年度義務年限内自治医科大学卒業医師の派遣について、町立飯南病院1名、公立邑智病院3名、隠岐病院3名、隠岐島前病院2名、知夫村診療所1名、計10名の派遣計画をお諮りし、ご承認いただきました。

また、事務局より新しい専門医制度

の中で自治医科
大学卒業医師等
が総合診療専門
医を取得できる
プログラムの作
成を考えており、
そのプログラム
では診療所や中
小病院、地域の
中核病院等を組
み合わせ幅広い
研修をすること
が考えられる旨説明しました。その他、
しまね地域医療支援センターからは今
までの取組みの成果などについて説明
がありました。



なお、この日は東日本大震災の発生
から4周年となるため、会議に先立ち
黙祷を捧げ、震災により亡くなられた
方々に対して哀悼の意を表しました。
また開会あいさつで県の原健康福祉部
長より各医療機関、関係団体に対して
災害時の医療救護活動への協力につい
てお礼を申し述べました。

【医療政策課 神村】

平成26年度 春季地域医療実習報告会

3月13日、島根大学医学部で春季地
域医療実習の報告会・意見交換会と懇
親会が行われました。

地域医療実習は、島根県から奨学金
の貸与を受けた医学生や、島根県出身
の自治医科大学の医学生など、地域医
療に関心を持っている医学生が、中山
間地や離島の医療機関等で実習を行う
ものです。

夏季に続いて今年度2回目となる春
季地域医療実習は、島根大学及び鳥取
大学の1～3年生26名が参加し、3月
9日(月)～3月12日(木)にかけて
県内7地区の医療機関等で行われまし
た。

この日の意見交換会では、学生が実
習地区毎のグループに分かれて実習の
成果を発表しました。訪問診療に同行
し、医師と患者の信頼関係の構築の大
切さやコミュニケーションの取り方を
学んだことや、それぞれの地域医療機
関では、その地域に根差した独自の取
組みが行われていることなどが発表さ
れました。また、実習の内容だけでなく、
それぞれの地区が抱える課題や問

題点を見出し、それに対する解決策を
提案するなど、今まで以上に深い発表
内容でした。各グループの発表後は、
他地区で実習をした学生や、TV会議シ
ステムで参加いただいた実習先病院の
先生方も交えて活発な意見交換が行わ
れました。

意見交換会
後の懇親会で
は、大学間を
越えた横のつ
ながりもでき、
交流を深める
ことができました。



今後もうこういった実習を通じて、座
学では学べない地域医療の楽しさを経
験してもらい、地域に興味を持つ学生
が増えることを期待しています。

このたびの実習でお世話になりました
医療機関や保健所をはじめ、ご協力
いただきました方々に改めてお礼申し
上げます。

【医療政策課 三木】



島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた先生には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

医師募集・地域医療視察ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアー（県負担）を実施しています。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室

TEL 0852-22-6684 FAX 0852-22-6040

E-Mail iryu@pref.shimane.lg.jp

ホームページ :

島根の医師確保対策

検索

